

殿山第二小だより

令和 3年 5月19日 第 7号

枚方市立殿山第二小学校

TEL:050-7102-9044



そのパンフレットの表紙には、下図の文面が記載されています。

子どもを健やかに育むために ～愛の鞭ゼロ作戦～

子育てをしていると、
子どもが言うことを聞いてくれない、
イライラすることもあります。
つい、叩いたり怒鳴ったりしたくなることもありますよね。
一見、体罰や暴言には効果があるように見えますが、
恐怖により子どもをコントロールしているだけで、
なぜ叱られたのか子どもが理解できていないこともあります。
最初は「愛の鞭」のつもりでも、いつの間にか
「虐待」へとエスカレートしてしまうこともあります。
体罰や暴言による「愛の鞭」は捨ててしましましょう。
そして、子どもの気持ちに寄り添いながら、
みんなで前向きに育んでいきましょう。

お詫びとお願い

新型コロナウイルス感染症拡大のため一学期の行事が中止及び延期になりました。保護者の皆様には来校予定をしていただいたいのことと思いますが、今般の状況を鑑み、やむを得ずの判断であることを、どうぞご了承いただきますようお願いいたします。

学校ブログホームページでも、日々の学校の様子やお知らせ文書を掲載させていただいておりますので、どうぞご覧になってください。



携帯サイト：
ブログQRコード

今から4年前、平成29年5月15日付で、厚生労働省は、体罰によらない育児を推進する目的で、都道府県の児童福祉・母子保健行政に対して

「子どもを健やかに育むために～愛の鞭ゼロ作戦～」を通知しました。

その理由を、『子どものしつけには体罰が必要』という誤った認識や風潮を社会から一掃するため」と記載し、体罰によらない育児を推進するパンフレットが作成されました。



また、パンフレットには、脳画像の研究からわかってきたことも報告されています。それによりますと、「体罰・暴言は子どもの脳の発達に深刻な影響を及ぼします。」という表題のあとに、子ども時代に辛い体験をした人は、脳に大きなダメージを受けているかもしれないと……。親・養育者や大人が「愛の鞭」「しつけのため」のつもりだったとしても、「体罰や暴言は、百害あって一利なし。子どもに望ましい影響などもたらしません。」と断言しています。

目に見えない頭の中の話ですが、子どもの特権は本来、屈託のない笑顔で、様々な興味関心を持って取り組むことができることだと思います。

学校でできることを考えた時、まず、一人ひとりの気持ちに寄り添い、自らが学んでいこうとする子どもの姿を大事にしていくことを殿山第二小教職員が共通認識することと思います。

そのためにも、学校が和やかで温かい言葉が行き交う場でなければなりません。繰り返し繰り返し、論していくことも必要でしょう。これは、忍耐を要します。継続していくためには私たち大人自身の心身の健康があってこそ、子どもたちと良好な人間関係を築いていくことができるのかもしれませんが。

“との二つ子”の笑顔あふれる学校をつくっていくために、学校と保護者・地域の皆様と共に考え、明るいあいさつの声が響く校区でありたいと願っています。

6年生：教室後部掲示版

